

【児童への話】

先週の金曜日、土曜日は、学芸会でした。皆さんの精一杯頑張る姿を、お家の方にも見ていただくことができてよかったです。皆さんの頑張りに、もう一度校長先生から拍手を送ります。とても素晴らしかったです！

さて、今日は皆さんに、「自分のブレーキ」について考えてもらいます。

人間とその他の動物を分けるのは、よいこと、よくないことの判断を自分でできることです。

皆さんは、よくないと思うことをする前に、自分に「いけない！」とブレーキをかけることができますね。そのとき今から言う2つのうち自分の考え方に近い方を選んでください。あとで手を挙げてもらいます。

1「他の人に、この人おかしな人だと思われて恥ずかしいから、よくないことはしない」

2「自分に悪いことが返ってくるから、よくないことはしない」

さて、どちらでしょうか？

実は、どちらの考え方も正しいものですが、校長先生は、1の考えをおススメします。

1の「自分が恥ずかしいから」と考えるのは、日本に昔からある考え方です。このように、人に見られて恥ずかしいと感じることを、「恥の文化」といいます。

2の「自分に罰が当たるから」と考えるのは、ヨーロッパやアメリカなどの欧米的な考え方です。このように、結局自分が損をするから、と思うことを、「罪の文化」といいます。

1と2のどちらも、いけないことをしないよう、自分でブレーキをかけられるということですから、とてもすばらしいことです。ただし2の考え方は、「バレなければいいや」「罰が当たらなければいいや」と考えてしまうことにもつながるので、番町小の皆さんには、1の考え方のように、自分のしていることを見つめ、「そんなことをしている自分は恥ずかしい、みっともないと思うから、自分はやらないよ」という、正しい判断ができるようにしてもらいたいと思っています。

また、よくないことをしたときに、「だれだれがしているから」「みんながしているから」という理由を言う人がいます。これは、とっても恥ずかしいことです。自分のことは自分で決めるものです。皆さんは、よいこと、よくないことを、自分で正しく判断して行動でき、自分のしたことに責任をとれる人になって欲しいと思います。今日は、「自分のブレーキ」についてお話ししました。

【本講話について】

常々、教職員に話している内容の講話です。子どもたちがトラブルになったとき、当該の子どもからじっくり話を聞くのですが、自分の言動を見つめて素直に反省することが難しい子どもが増えているように思います。「相手がやったからやり返した」「他の人もやっている」などの言葉を聞くと、悲しい気持ちになるとともに、自分の行為を省みて、「恥ずかしいこと」「みっともないこと」と感じる力が高めていく必要を強く感じます。

「恥の文化」は、いわゆる「お天道様が見ているぞ」の考え方です。第三者の目を通して自分がどのように見えているのかを考え、正しい行動を自身で判断できることが大切になります。本校の子どもたちには、自分のことだけでなく人の立場から物事を考え、他者や社会のために動くことができ、人から愛される人になって欲しいと強く願っています。